時事解説

ブラジルにおける農業および農薬市場の動向

日本農薬株式会社　淵田智一（ふちだ ともかず）

はじめに

ブラジルは世界5番目に大きな国土を有している（約851 mil ha）。しかし，その66.3％は原生植物が占めており（約50％はアマゾン地域が占める），国土の約30.2％が農業に利用されているものの21.2％は牧草地で，作物の栽培面積は約7.8％にすぎず，農地として利用されている面積そのものは想像よりかなり小さい（図-1）。

一方，農地利用の点では，主要作物であるダイズやトウモロコシにおいて“マルチクロッピング”（1年の間で同じ区画で2種類以上の作物を連続して栽培すること）が広く実施されており，地域によっては，コムギ，ワタ等でも取り入れられている。このことは，1980～2020年の40年間に，穀物栽培面積としては71％増加にとどまったにもかかわらず，生産量は384％に大きく増加する結果につながった。特に，ダイズは約8倍，トウモロコシは約4倍と大きく増加しており，ワタも約3倍に伸長した。

このような栽培体系技術の確立・強化により，ブラジル国内ではBiome（気候によって分けられた生態系の生物集団）の多様性を維持しつつ，農業生産力の拡大を達成している。

植物防疫

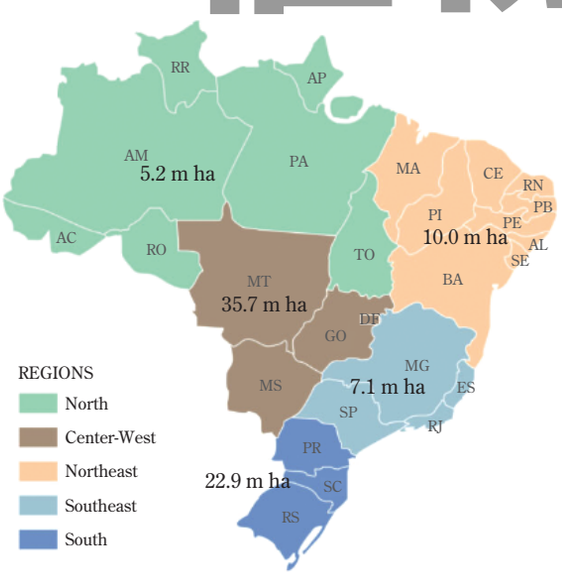

図-1　地域別農業作付面積（2024～25年シーズン）
Sources: MINISTÉRIO DA AGRICULTURA e COGO INTELIGÊNCIA EM AGRONEGÓCIO/ELABORAÇÃO E PROJEÇÕES.

I　主要農作物と栽培

2024～25年シーズンにおける主要農作物とその予想栽培面積は以下の通りである。

今期は81 mil haの作付けが予定される中で，その約51％はダイズであり，続いてトウモロコシ（24％），サトウキビ（9％）となり，上位3作物で全体の84％を占める（図-2）。

栽培面積全体は前年比で2.6％と微増であり，コムギ，トウモロコシ，ソルガム，水稲の作付けが増加した。一方で，オレンジは作付けが減少し，ダイズとサトウキビはほぼ横ばいとなった。

例年，その割合に大きな変化はないが，栽培面積は全体として緩やかに成長傾向にある。

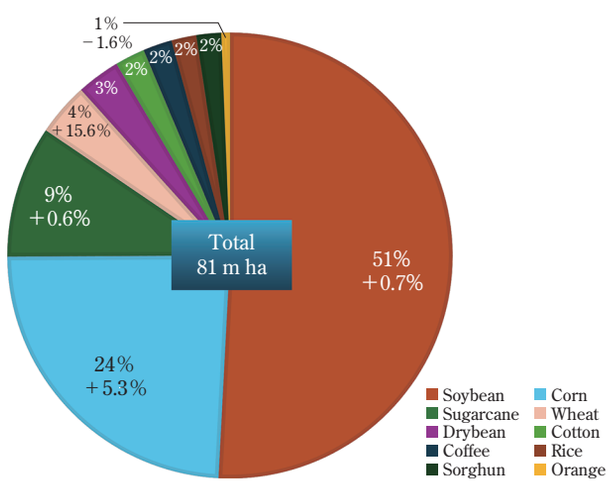

図-2　作物別作付面積（2024～25年シーズン）
Sources: MINISTÉRIO DA AGRICULTURA e COGO INTELIGÊNCIA EM AGRONEGÓCIO/ELABORAÇÃO E PROJEÇÕES.

Pesticide Market and trend in Brazil.　By Tomokazu FUCHIDA
（キーワード：ブラジル，Crop Life Brazil，Sindiveg，MAPA，ミカンキジラミ）